

閉会挨拶

杉野 剛
国立教育政策研究所次長

- 報告書作成に当たり、当日の発言内容に修正を加えていることがあります。
- 所属団体、職名は2013年12月10日現在のものであります。

閉会挨拶

国立教育政策研究所次長
杉野 剛



皆様おつかれさまでございました。本日は御多用の中シンポジウムに御参加いただきまして誠にありがとうございました。各大学、民間団体から多くの皆様方に御参加いただき、更には在日の外国大使館の関係者の方々にも御参加をいただきました。ゲストの先生方からは大変興味深いお話を伺うことができました。

最初に木村孟先生からは過去30年間にわたります大学改革の流れと、大学評価の課題を俯瞰するお話をいただきました。その見取り図の上にこのシンポジウムを位置付けて進めることができたと思っております。

ローベルト・ワーヘナール先生からはコンピテンス枠組みに基づく学位プログラムを構築するチューニングの具体的な方法につきまして、最新の情報を御紹介いただきました。

ピーター・ユーウェル先生からはAHELOの全体像を御紹介いただきますとともに、その結果と課題、更にはこの調査の今後の育成について貴重なお話をお伺いすることができました。

岸本喜久雄先生からはAHELOの工学分野におけます日本での取組についてお話をいただきました。こういった国際的な調査につきましては、単に調査に参加するだけではなく、その調査問題の開発の段階から参加してこそ大きな成果が得られるということを痛感した次第でございます。

深堀聡子先生からは、今日も御参加いただきましたメアリーキャサリン・レノン先生、ダニエル・エドワーズ先生とともに取り組んでおりますカナダ、オーストラリア、日本の3か国の調査結果の分析に関する報告がございました。いろいろと制約がある中ではございますけど、この3か国の取組には大きな意義があるのではないかなと考えております。

こういった御講演、報告を踏まえてのパネルディスカッションでは、更に率直と言いましようか、金子先生のお言葉では刺激的な御意見、あるいは貴重なお話をお伺いすることができました。論点を整理いただき、実り多い議論を深めていただきました金子元久先生に御礼を申し上げます。TUNING-AHELOは我が国の大学政策、あるいは各大学での教育実践に重要な示唆を提供していただくものだと考えております。木村先生のお話にもありましたけれども、日本の大学教育はどうやら日本のウィークポイントだということでございますけれども、このシンポジウムを契機に日本の大学教育の改善が進むことを祈念いたしまして、また、本シンポジウムに御参加いただきました全ての皆様方に厚く御礼を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。